

石垣の里

1120294 岡本 元輝

高知工科大学工学部社会システム工学科

外泊は石垣に囲まれた独特な雰囲気を持つ集落であるが空き地も多く見られ、外泊ならではの風景が失われつつある。そこで空き地が集中している場所を敷地とし、外泊の風景と調和した宿泊施設を提案する。

Key words: 集落、石垣、眺望

1. はじめに

集落の魅力は、その土地ならではの建築やその他の構築物などが、それを取り巻く自然とともに、美しく群れをなす風景である。このような風景は気候・風土により生み出されている。

訪れた人が自然を身近に感じ、時間がゆっくり流れるように感じることで都会の喧噪を忘れ、落ち着いた空間で過ごせるその集落ならではの宿泊施設を提案する。

2. 敷地

2.1 敷地の選定と現況

敷地は愛媛県愛南町外泊の一部の空き地を対象とした。



図 1

外泊は「日本の美しいむら農林水産大臣賞」を受賞し、「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」にも選定されており、現在は観光案内所も建設され、観光に力を入れている。しかし、図1のように空き地も多く見られ、石垣と木造住宅が合わさった独特な雰囲気が失われつつある。

平屋が主だった外泊も現在では二階建ての住宅が多く見られるようになった。

外泊の人口は年々減少している。このまま人口が減少していくと、外泊の魅力である石垣の維持管理が難しくなっていく。



現況写真

2.2 敷地の選定の理由

外泊は石垣に囲まれた集落である。敷地は入り江に面した斜面にあり、それぞれの住居は台風や季節風から家を守るため、家の周囲に石垣を軒の高さまで積み上げている所もあり、瓦の屋根と石垣が印象の強い集落となっている。

対象敷地は石垣の集落と宇和海を一望できる場所にあり、敷地の周りを石垣が囲い、一つ一つの敷地も雛壇状に造成されている。

3. コンセプト

石垣の里は外泊の風景に調和した外観を持ち、ゲストがゆっくり過ごせるような宿泊施設とする。

- ・ 石垣と切妻屋根の組み合わせ
- ・ 敷地からの眺望
- ・ 客室のプライバシー重視

4. 規模

- ・ 本館 (ロビー、フロント、事務室、ダイニング、厨房) 154㎡
- ・ 客室A (二人用) 54㎡
- ・ 客室B (二人用) 70.5㎡
- ・ 客室C (二人用) 82.5㎡
- 合計 361㎡

5. 全体計画

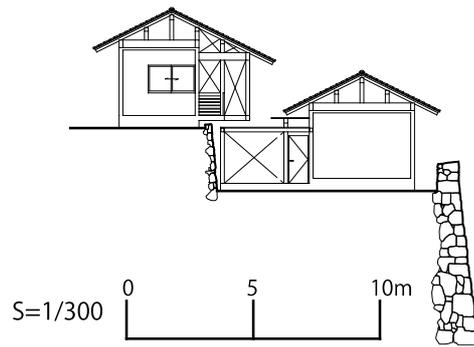
- ・ 配置図



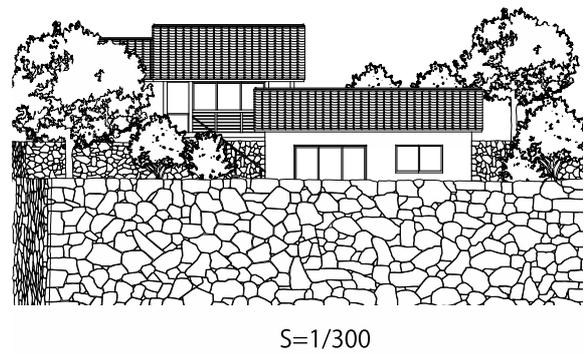
- ・ 客室 C 平面図



- ・ 客室 C B-B` 断面図



- ・ 客室 C 北立面図



- ・ 客室 C 内観



参考文献

- 1) 伊藤ていじ、二川幸夫、北嶋俊治：日本の民家（1980年6月）